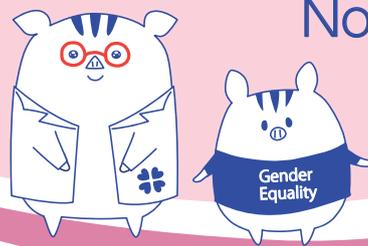


ジェンダー平等 推進部門 便り



2025年3月31日発行

神戸大学インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンタージェンダー平等推進部門 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 Tel:078-803-5471/5017

「ADRESサイクルによる輝く女性リーダー活躍促進プログラム」 キックオフ・シンポジウムを開催しました

本学は、令和6年10月1日付で文部科学省・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」に採択されました。これに伴い、令和7年3月10日、瀧川記念学術交流会館において、本学採択事業「ADRESサイクルによる輝く女性リーダー活躍促進プログラム」のキックオフ・シンポジウムが開催されました。

同事業は、女性教員の採用比率と在籍比率を向上させ、女性教授及び女性准教授、とくに自然科学系の女性教授を増やすことを目的としており、令和6年度から11年度にかけて、女性研究者の登用、育成、定着に関する取組、これらを支える意識改革に関する取組として、様々な支援プログラムが展開されます。

キックオフ・シンポジウムは、学内外にプログラムの内容を紹介し、本学の取組をアピールするために企画され、会場参加が50名程度、オンライン参加も50名程度で、合わせて100名を超える方々が参加しました。

シンポジウムの第1部では、まず藤澤正人学長が挨拶し、女性研究者の育成に関する本学のこれまでの取組と今回の採択プログラムについて紹介するとともに、本事業に対する期待を述べました。次いで、国立研究開発法人科学技術振興機構・プログラム主管、山村康子氏が「組織戦略としてのダイバーシティ推進」について基調講演を行いました。同講演では、女性研究者割合の国内外の現状を踏まえ、我が国では女性研究者のキャリア形成において水漏れパイプライン現象が顕著であることが指摘されるとともに、女性リーダー育成型のねらいと採択大学における先進的な取組が紹介されました。続いて、女性リーダー育成推進室の田中丸治哉コーディネーターが本学プログラムの概要と実施体制について説明しました。

第2部では、女性リーダー育成推進室長の奥村弘理事・副学長がファシリテーターを務め、栗栖薫子法学研究科長、みらい開拓人材育成センター長の佐藤春実学長補佐、藤濤文子副学長、元人間発達環境学研究科長で元男女共同参画推進室長の朴木佳緒留名誉教授がパネリストとして登壇し、パネルディスカッションを行いました。管理職を務めてきたパネリストらは、自身のキャリアとこれまでの経験について述べるとともに、女性リーダーを増やす上での課題などについて意見交換を行い、会場参加者からの発言も加わって活発な議論がなされました。最後に、女性リーダー育成推進室副室長の野田和恵学長補佐による閉会挨拶で、シンポジウムの幕を閉じました。



藤澤学長挨拶



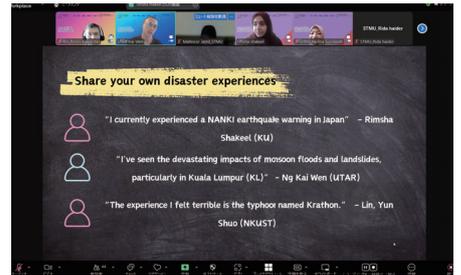
パネルディスカッション

神戸大学ユネスコチェア事業の柱のひとつに、学部生や大学院生を対象に年に一度開催される「教育プログラム」があります。本年度は12月7～8日にオンラインで開催され、神戸大学から4名、インドネシア8名、マレーシア5名、台湾10名(うちファシリテーター2名)、パキスタン10名の学生が参加しました。

今年度のテーマ「災害を語ろう～より安全・安心な社会に私たちができること」のもと、前半は各国の現状についてのプレゼンテーションや教員によるパネルディスカッションをし、後半は複数大学で構成されたグループが「身近な災害を比較してから、各自ができることを提示する」という課題に対して自らの回答を報告しました。

オンラインで初対面の相手と英語で議論することの難しさを味わう経験と共に、各国の類似点や違いについて学ぶことができたようです。アンケートには、「世界にたくさんの災害が起こることを学びました。防災について深く勉強すれば、すべての人にとってより安全になります。災害について大学のクラスメイトだけではなく、世界中の友だちとコミュニケーションする方法を学びました」(高雄科技大学)、「他国の学生から、その国独自の文化や災害に関する情報を、彼ら自身の体験として聞けて良かったです。…私は自分自身も含め、地震などの災害が起きたときにどのような対応が適切なのかを改めて調べ、憶えておきたいと思っています」(神戸大学)などのコメントが多数ありました。この神戸大学ユネスコチェア教育プログラムの詳細については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/project/unesco/summer-program/2024.html>



神戸大学ユネスコチェア
研究プログラム

オンライン国際共同研究セミナーが開催されました

2024年度の神戸大学ユネスコチェア国際共同研究セミナーが、11月16日にオンラインで開催されました。タイ、インドネシア、マレーシア、台湾、パキスタン、日本から60名の研究者や院生が集まり、「ジェンダー平等とウェルビーイングの海を航海する～持続可能な未来における気候変動のインパクト」について、活発な議論を展開することができました。

はじめに、メーファールアン大学社会イノベーション研究科のチャントラ研究科長から歓迎のあいさつがありました。続いて、神戸大学ユネスコチェア・チェアホルダーのアレクサンダーがユネスコチェアや本セミナーの経緯について説明しました。その後、各大学がジェンダー、気候変動、持続性、ウェルビーイングをキーワードに研究報告を行いました。内容としては、「気候変動による年間及び季節降雨量の変動～サラワク州シムジャンのケース」(ティンクアブダラーマン大学)、「女性船員における気候変動のインパクト～チャレンジと機会」(高雄科技大学)、「気候変動に対するジェンダー・トランスフォーマティブアプローチの意義」(神戸大学)、「気候変動による災害の多面的なジェンダーインパクトと持続可能な開発」(メーファールアン大学)、「大学生の健康とウェルビーイングにおける気候変動のインパクト」(シファタミールエミラート大学)など、多岐にわたるコンテンツとなりました。この国際共同研究セミナーの詳細は、以下のサイトをご覧ください。https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/project/unesco/seminar_list/2024/1116.html



令和5年度 国際共同研究者養成プログラム 研究報告

令和5年度の国際共同研究者養成プログラムの支援を受け、ヒトや家畜に重大な影響を及ぼす病原ウイルスの遺伝子発現機構についての研究を遂行しました。

私たちが着目しているウイルスは、特に小児下痢症の原因であるロタウイルス (RV)、家畜に高い致死率の感染症を引き起こすブルータングウイルス (BTV)、アフリカ馬疫ウイルス (AHSV)、流行性出血病ウイルス (EHDV) です。これらのウイルスは、共通して「二本鎖 RNA (dsRNA)」という少し変わった構造をした核酸をゲノムとして持っています。本研究ではこの特異なゲノム構造をもつウイルスがどのように自らのゲノムを複製したり、タンパク質の鋳型である mRNA を合成 (転写) したりしているのかの詳細を明らかにすることを目的としています。

まず、共同研究者である英国ロンドンのロンドン大学衛生熱帯医学大学院 (LSHTM) の Polly Roy 教授とともに転写とゲノム複製を担うタンパク質である RNA 依存的 RNA ポリメラーゼ (RdRp) の酵素活性を検出する実験系の改良を行いました。これまでのアッセイ系は、放射線同位体 (RI) を用いていましたが、日本だけでなく英国でも RI の利用が困難になってきたため、非 RI のアッセイ系を構築する必要があります。そこで、再現性の高い非 RI のアッセイ系の構築を目指しました。

次に、RdRp のウイルス内での真の機能を解析するために必須の技術である遺伝子改変技術の改良を行いました。RV、BTV、AHSV、EHDV ではすでに遺伝子改変技術は構築されていますが、効率が悪いなどの問題があります。そこでより短期間で充分量の変異ウイルスを作出できるように実験系の効率化を目指しました。

本研究遂行のため、2023年12月14日から2025年1月23日までLSHTMで実験に従事しました。LSHTMは昔からある建物を少しずつリノベーションして使用しているため、「古い区画」と「新しい区画」が混在しています。Roy研究室は「やや古い区画」の最上階に位置しているため思わぬパニングに見舞われたりもしましたが非常に楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

農学研究科 助教授 松尾 栄子

【派遣期間】 2023/12/14 - 2024/1/23

【派遣国】 イギリス

【派遣先研究機関】

ロンドン大学衛生熱帯医学大学院

London School of Hygiene and Tropical Medicine



▲ LSHTMの正面入り口 (日本の大学と違って狭い入り口。実は荷物の搬入用のかなり広い裏口があります。鋼鉄の扉 (ものすごく重たい) の奥に自動ドアがあります。



▲ LSHTMは名前の通り、「虫が媒介する熱帯病」がメインでもあるので、建物にはベクター (病気を媒介する節足動物) である蚊やダニのレリーフが沢山あります。



▲ 遺伝子クローニング中の実験台 (実験者の性格もあるのかもしれませんが、実験中はできる限り動線を短くしたいので、雑然としています)。国の規制で10年くらい前から大学の研究室からガス管が取っ払われたため、ガスバーナーは全てポータブル式です。

令和6年度 国際共同研究成果報告会を開催しました

令和7年3月10日(月)、瀧川記念学術交流会館2階大会議室にて、国際共同研究成果報告会を開催しました。ジェンダー平等推進部門が実施している「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (先端型)」事業の一環で、国際共同研究者養成プログラムを利用された、平田燕奈先生 (海事科学研究科)、胡 友恵先生 (保健学研究科)、松尾栄子先生 (農学研究科) による成果報告会をハイブリッド形式 (オンライン・対面併用) で実施しました。

研究内容や今後の展望、国際共同研究を通して得た経験等を発表いただき、社会的に要請されている重要な課題に取り組んだ成果を出していただけることから、それぞれの分野に貢献されることが期待できました。今後も、国際共同研究を終了された先生方の成果報告会は定期的開催する予定です。アンケート結果は以下をご参照ください。

https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/diversity/leader/images/20250310report_anq.pdf

令和6年度 第3回 ロールモデル交流会 女性研究者と話そう ～自然科学系編～ を開催しました

令和7年1月24日(金)、神戸大学BMO棟(産官学連携本部増築棟)会議室において「令和6年度 第3回ロールモデル交流会 女性研究者と話そう～自然科学系編～」をハイブリッド形式(オンライン・対面併用)で開催しました。対面で9名、リモートで16名の計25名が参加しました。

基調講演では、津坂優子先生(大学院博士支援推進室)からご自身のキャリアパスをご紹介いただくとともに、「博士学生における女性の割合やジェンダーギャップ解消に向けた施策」「大学、企業、国の研究機関等で働く場合の違い」「博士学生への支援の実態」等をデータに基づいて詳細にご説明いただきました。

続いて鈴木麻里子先生(農学研究科)、後藤沙羅先生(工学研究科)からご自身の研究紹介をはじめ、学部を卒業されてから今日に至るまでのキャリアパスや、現在のご自身の研究活動を含めた日々の生活についてお話しいただきました。

総合討論では、田中丸コーディネーター(女性リーダー育成推進室)の司会により、講演に対する質疑応答を中心に討論が展開されました。アンケート結果は以下をご参照ください。

https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/diversity/leader/images/2025_01_24_anq_1.jpg



ジェンダー平等推進部門内に情報コーナーをオープンしました

ジェンダー平等推進部門(六甲台第2キャンパス・眺望館2F)に、多様な性やジェンダーに関する書籍を読んだり、DVDを視聴できる情報コーナー(以下写真)をオープンしました。貸出も行っています。神戸大学構成員であればどなたでもご利用いただけます。



利用案内

■ 開室時間

平日 10:00 - 16:00

※ 開室日・時間は変更になる場合があります

■ 貸 出: 5冊・点

■ 貸出期間: 2週間

＝ お・知・ら・せ ＝

多様な性・ジェンダーに関する相談窓口のご案内

ジェンダー平等推進部門では、神戸大学構成員の皆様の多様な性・ジェンダーに関する相談に対応しています。プライバシーは厳守しますので、気になること、悩み、質問などありましたら、お気軽にご相談ください。ご相談は、こちらのQRコードから。

多様な性・
ジェンダー
に関する
相談窓口



多様な性・ジェンダーに関する研修動画のご案内

神戸大学 ICHC センター 多様な性・ジェンダーに関する構成員向け研修作業部会が、「多様な性・ジェンダーに関する研修 知識と理解編～多様な構成員が活躍できる環境づくりをめざして～」を制作いたしました。

多様な性・
ジェンダー
に関する
研修動画



ダイバーシティ教育プログラム動画のご案内

ジェンダー平等推進部門では、男女共同参画の推進に向けて教育プログラム(eラーニング)を作成しました。学内限定で公開しています。ぜひご利用ください。

ダイバー
シティ教育
プログラム
動画



ジェンダー平等推進部門にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使ってお送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

■ジェンダー平等推進部門HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>